



2014年5月1日

各位

会社名 アイホン株式会社
代表者名 代表取締役社長 市川 周作
(コード番号 6718 東証・名証第一部)
問合せ先 取締役管理本部長 和田 健
(TEL 052-682-6191)

中期経営計画の見直しに関するお知らせ

当社は、2013年度を初年度とする第5次中期経営計画（2013年度～2015年度）において「輝け！アイホン ～真の輝きを求めて～」の下、利益体質の強化を主眼に置き、その目指すべき姿に向けた6つの重点戦略について、当社グループが一丸となり取り組んでまいりました。

その結果、2013年度につきましては当初の業績目標を達成することとなりました。こうした状況を踏まえるとともに、経営環境の変化等を勘案し、2014年度におきましては2年目を迎える第5次中期経営計画の見直しを行い、業績目標を下記の通り修正することといたしました。本計画に基づき、「輝く企業」を目指し、業績目標の達成に向けた取り組みをより一層強力に推進してまいります。

1. 業績目標

区分	2013年度〔実績〕	2014年度〔目標〕	2015年度〔目標〕
連結売上高	425億5百万円 (388億円)	440億円 (412億円)	470億円 (450億円)
連結営業利益高	33億8千4百万円 (26億5千万円)	36億円 (36億円)	45億円 (45億円)
連結売上高 営業利益率	7.96% (6.83%)	8.18% (8.74%)	9.57% (10.00%)

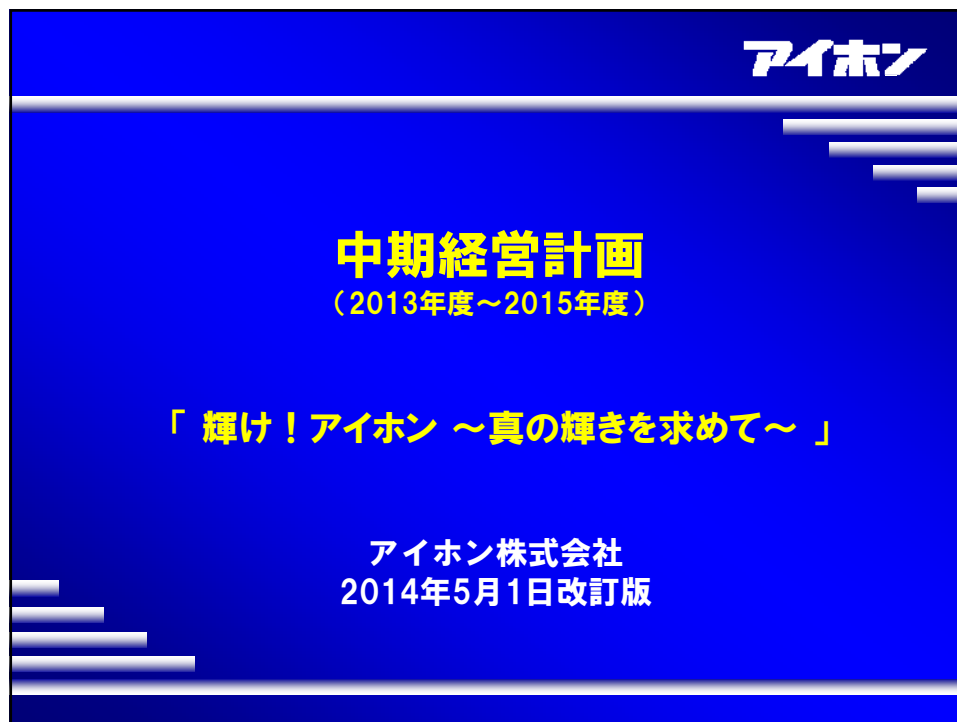
※カッコ内は当初計画

以上

【注意事項】

本資料（添付資料を含む）に記載されている業績目標等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって大きく異なることがあります。

(添付資料)



目次		アイホン
1.	中期経営方針について	
2.	中期経営計画の業績目標	
3.	中期経営計画の概要	
	・中期経営計画イメージ	
	・重点戦略の概要	
	（1）グローバル化の推進	
	（2）ネットワーク対応の市場創造	
	（3）コスト競争力の強化	
	（4）生産技術の改革	
	（5）源流管理による品質保証	
	（6）企業体質の強化	
4.	持続的成長への取り組み	
5.	環境への取り組み	

1. 中期経営方針について

アイホン

中期経営計画において当社グループが目指す姿

「輝け！アイホン ～ 真の輝きを求めて～」

中期経営計画の基本方針は、「利益体質の強化」を掲げ以下の戦略を主眼に取り組みます。

- ・販売や生産体制の一層のグローバル化
- ・競争力のある商品の開発推進
- ・次世代を見据えネットワーク化に対応した商品・販売戦略による市場創造
- ・付加価値の高い仕事を指向し企業体質を強化

当社グループ一丸となって今回の中期経営計画を推進することで、真に輝くアイホンを目指します。

2

2. 中期経営計画の業績目標

アイホン

(1) 連結売上高目標

(2) 連結営業利益高・利益率目標

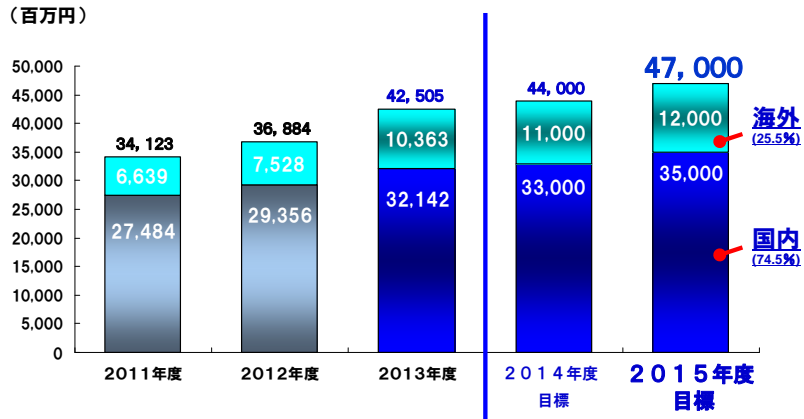
- ・利益配分の基本方針
- ・資本効率の向上について

3

(1) 連結売上高目標



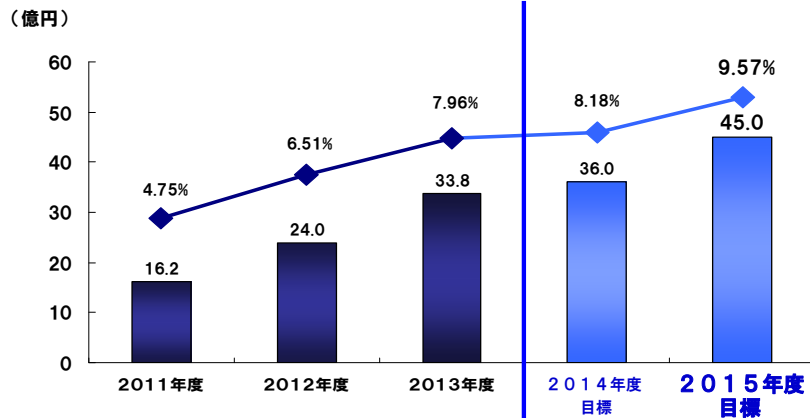
2015年度に連結売上高**470億円**を目指します。



(2) 連結営業利益高・利益率目標

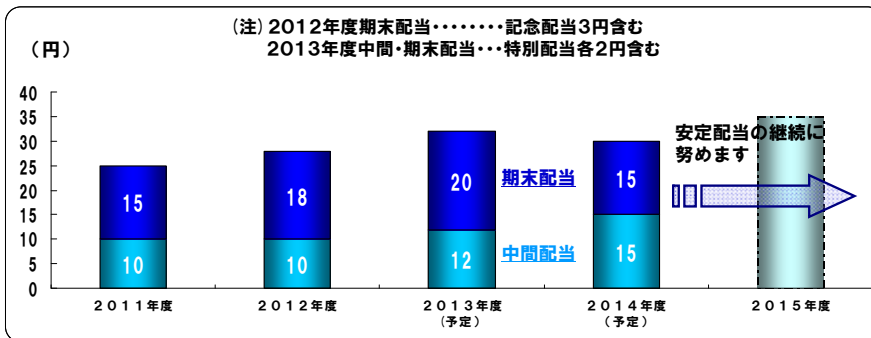


2015年度に連結営業利益高**45億円**・利益率**9.57%**を目指します。



利益配分の基本方針

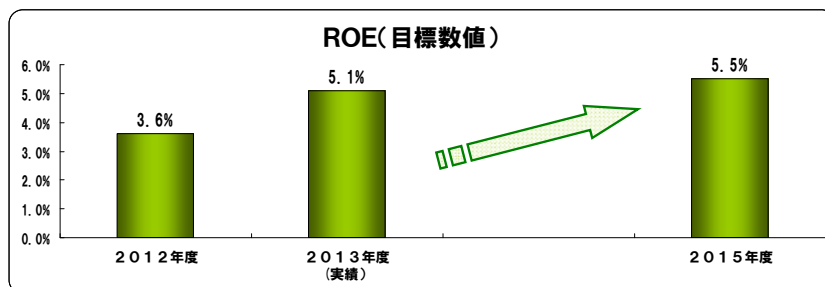
- 基本方針:当社では、利益還元を経営の重要な政策と位置づけており、長期的な視点に立った安定的な配当の継続に努め、経営基盤の強化と収益見通しを勘案しつつ積極的な配当を検討していくことを基本方針とします。
- 次期配当:年間30円の配当を念頭においております。



資本効率の向上について

■ROEターゲットの設定

2012年度 2015年度
3.6%(実績) ⇒ 5.5%以上(目標)
(連結ベース)



3. 中期経営計画の概要

アイホン

重点戦略の概要

- (1) グローバル化の推進
- (2) ネットワーク対応の市場創造
- (3) コスト競争力の強化
- (4) 生産技術の改革
- (5) 源流管理による品質保証
- (6) 企業体質の強化

8

中期計画イメージ

アイホン



9

(1) グローバル化の推進-1

アイホン

海外拠点の拡充で、販売と生産のグローバル化を更に推進する。

2015年度
海外市場売上高目標
120億円
(2012年度実績 75億円)



2013年度の結果について

- ・新商品の市場投入と物件受注活動が功を奏し、売上高は好調に推移。
- ・為替の影響もあり、売上高は大幅に増加。
- ・アイホン上海(販社)の設立と、台湾・オーストラリアに駐在事務所を開設。

ねらいと施策

- これまで以上に積極的な海外営業を推進する。
- ・2013年度はアイホン上海(販社)設立 ・海外に新たな営業拠点を開設(4ヵ所程度)
 - ・地域別の新商品投入による売上拡大

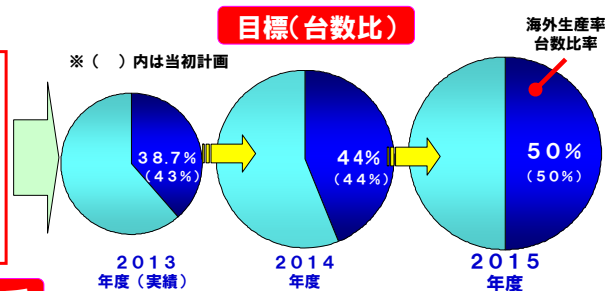
10

(1) グローバル化の推進-2

アイホン

海外拠点の拡充で、販売と生産のグローバル化を更に推進する。

2015年度
海外生産比率目標
50%(台数比)
(2012年度実績
42.3%)



2013年度の結果について

- ・当初計画していた海外への生産シフトは計画通り実施できた。
- ・国内集積リニューアル市場の売上げから、国内生産機種が増加した。

ねらいと施策

- 海外への生産シフトを推進し、利益の確保に繋げる。
- ・生産体制の見直しにより海外生産比率を高める
 - ・生産機種移管計画の見直しを実施する(追加施策)

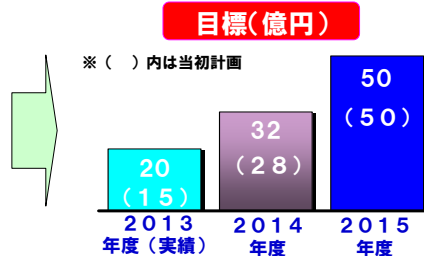
11

(2) ネットワーク対応の市場創造

アイシン

ネットワーク社会に対応した市場別戦略を展開する。

2015年度
ネットワーク商品売上高
50億円
(2012年度 2.2億円)



2013年度の結果について

- ・新集合住宅システム「VIXUS」の提案活動が功を奏し、販売が好調に推移。
- ・業務市場向けIPインターホンの継続採用件数は計画を上回る形で推移。

ねらいと施策

- 伸展するネットワーク社会において将来の柱となる市場を創造する。
- ・住宅内の見える化に対応したシステムの採用化拡大(HEMS、MEMS)
 - ・業務市場向けIP対応インターホンの積極提案

12

(3) コスト競争力の強化

アイシン

コスト競争力のある製品を開発する。

2015年度
新商品利益率の向上
対2012年度比
3ポイント向上



2013年度の結果について

- ・施策の実施に伴う効果に即効性が少なく、次期以降の効果が中心となった。
- ・為替の影響があり、想定コストを確保することができなかった。

ねらいと施策

- コスト競争力のある製品開発を進め、開発面から利益体質を強化する。
- ・基幹部品の見直し
 - ・部品点数の削減
 - ・開発購買の推進
 - ・コストダウン情報の一元管理及び水平展開(追加施策)

13

(4) 生産技術の改革

アイシン

生産技術改革により、更なるコストダウンを実現する。

2015年度
限界利益率の向上
対2012年度比
3ポイント向上



2013年度の結果について

- ・施策の1つとして、生産工程の改善を実施し、生産性を向上。
- ・生産子会社を含め、順次活動を進めた結果、実際の効果は下期からとなった。

ねらいと施策

- 開発された商品に対してVE・生産体制などの改善を行いコストダウンを進める。
- ・コストダウン設計の専任部署の創設
- ・生産拠点別の生産性向上への取り組み

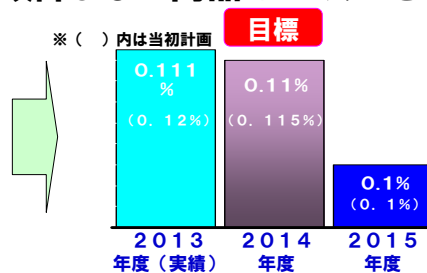
14

(5) 源流管理による品質保証

アイシン

源流管理により、安全で故障しない商品をつくりこむ。

2015年度
初期故障率
0.1%以下
(2012年度実績0.121%)



2013年度の結果について

- ・施策を計画通り実施し、目標を達成することができた。
- ・引き続き重点施策として取り組みを進める。

ねらいと施策

- 予測予防を強化することで、不具合を未然防止し安全で故障しない商品づくりに取り組む。
- ・開発段階からの源流管理
- ・品質情報(潜在故障・故障状況等)の見える化

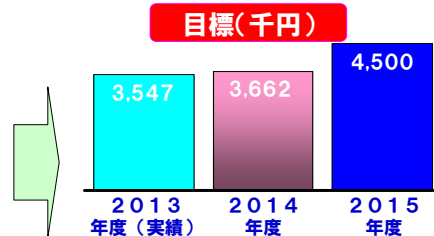
15

(6) 企業体質の強化

アイシン

全社的取り組みにより、輝く企業体質をつくる

2015年度
1人あたり営業利益高
4,500(千円):連結
(2012年度実績
2,598千円)



2015年度の計画修正について

・為替などの影響から、個別の利益とグループの利益がつかないケースがあるため、利益数値を連結ベースに修正。

ねらいと施策

企業体質の強化を図る指標として1人あたり営業利益高を掲げ、付加価値を高める。
 ・業務改革の推進 ・基幹(IT)システムの革新 ・効率的な働き方の推進

※連結ベースへの修正に伴い、当初計画値の記載はしていません。

16

4. 持続的成長への取り組み

アイシン

マンションリニューアル市場の深耕による売上拡大

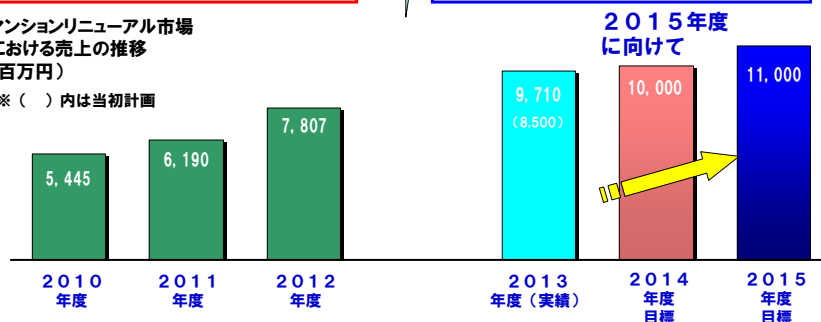
これまでの取り組み

主力地域への専任担当者の配置
大手管理会社への活動を重点化
新商品「らくタッチ」シリーズ提案活動

これまでの活動を持続し、
さらなる拡大を目指します。

マンションリニューアル市場
における売上の推移
(百万円)

※ () 内は当初計画



17

5. 環境への取り組み

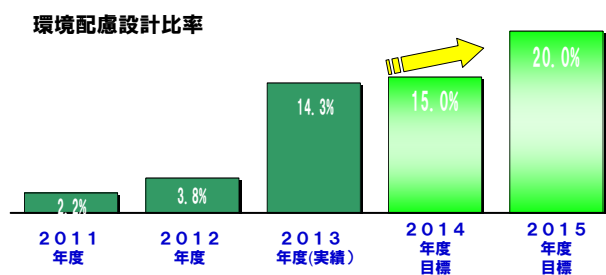
アイホン

環境配慮設計による商品開発を推進しています。



2012年9月発売のテレビドアホンJL-12Eでは、低消費電力化を狙った設計により、待受時消費電力を従来機種より、75%削減いたしました。
また、部品点数35%削減による省資源化により、環境負荷の軽減を図っています。

今後も、さらなる環境に配慮した商品開発に努めます。



18

アイホン

【注意事項】

本資料記載の、当期ならびに将来の業績に関する予想・計画・見通しにつきましては現在入手可能な情報に基づき、当社の経営者により判断したものです。実際の業績とは主要市場の状況・重要の変動・為替相場の変動などにより大きく異なることがあります。

19